

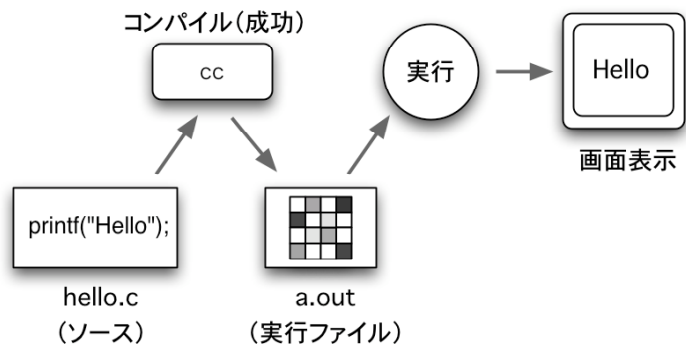
■ オブジェクトファイルの指定

□ コンパイル復習

今までプログラムは以下のようにしてコンパイルし、実行していたと思います。

```
cc2000% cc hello.c
cc2000% ./a.out
```

これは `hello.c` プログラムを `cc` コマンドによってコンパイルした結果、`a.out` という名前の実行ファイルが出来たので、それを実行していたわけです。

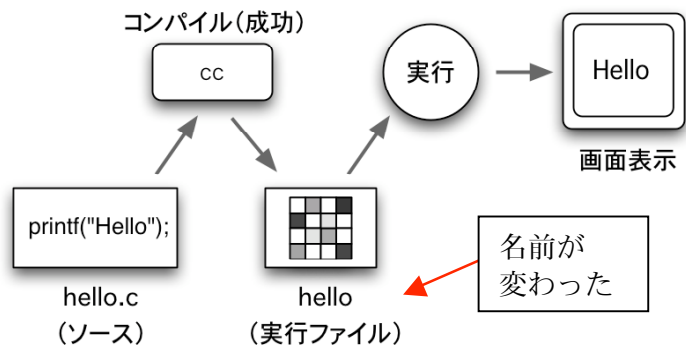


□ 実行ファイルの名前を指定する

この実行ファイルの名前を以下のようにしてコンパイル時に指定することができます。

```
cc2000% cc -o hello hello.c
cc2000% ./hello
```

`cc` コマンドの `-o` オプションに続けて作成する実行ファイル名を指定できます。実行時は作成されたファイル名を指定しますので `./hello` となります。



例のようにソース名の拡張子 (`.c`) を外した名前を実行ファイル名にする場合が一般的です。(違う名前を付けても構いません。)

□ 使いみち

そろそろ課題のプログラムなどが多くたまってきたと思います。常に実行ファイルの名前を `a.out` で作成していると、完成した課題の実行ファイルを残しておくことができず、実行結果を再確認するたびに毎回コンパイルし直すこととなります。実行ファイルをプログラムごとに名前を違えて残しておけばそうした面倒がありません。(そうしたことが理由で実行ファイル名をプログラムと同じ (ソースの拡張子を取ったもの) にする慣習ができたのでしょう。)

名前を指定しなかった場合と指定した場合で、出来上がる実行ファイルの中身に違いはありません。単に名前が `a.out` でないだけです。ファイル名を指定せず `a.out` の名前で実行ファイルを作成し、後に `mv a.out hello` などとしてファイルの名前を変更しても同じ事です。ただ多くのプログラマは `-o` オプションをつける方法を使っています。